

高山市制施行時における平湯街道の改修

川口 直秀¹・出村 嘉史²

¹学生会員 岐阜大学大学院工学研究科 大学院生・学士（工）（〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1）
E-mail: u3121010@edu.gifu-u.ac.jp

²正会員 岐阜大学工学部社会基盤工学科 准教授・博士（工）（〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1）
E-mail: demu@gifu-u.ac.jp

国立公園へ連絡する平湯街道の改修申請を行なった高山市に着目し、この地における都市形成の背景を収集した関係資料から整理し、改修を積極的に行なう背景にある目論みと、そのために取られた具体的な施策を明らかにすることを目的とする。市制施行時の高山市が平湯街道の改修を希望したのは、高山を登山客の経由地にすることで観光振興を図るためであり、その為に安房峠の改修を国・県・周辺町村など各関係主体と共同で行ない、高山駅から平湯街道へと通じる街路を主要な都市計画街路として位置づけた。

Key Words : *Modern Local Cities, The City Planning Act of 1933, Takayama, National Park*

近代地方都市, 1933年都市計画法, 高山, 国立公園

1. はじめに

現在、地方創生が政府の主要な政策キーワードに用いられており、国内の各地域・地方がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会をかたちづくることが重要とされている。

昭和初期の日本においても、不況にあえぐ地方経済を更生する取り組みが国主導で行なわれている¹⁾。地方の山間部においては産業振興策の1つとして、国立公園への外客誘致が図られた²⁾。

岐阜県飛騨地方の山間部にある高山市は、中部山岳国

立公園の西方に位置する小都市である（図-1）。市街地は旧高山町・旧大名田町によって構成されており、2町は1936年11月に合併・市制施行をしている。

本稿では、中部山岳国立公園へ連絡する街道の改修申請を行なった高山市に着目し、改修を積極的に行なう背景にある目論みと、そのために取られた具体的な施策を明らかにすることを目的とする。

2. 平湯街道の改修を主導した高山町

当時の新聞記事から高山町による平湯街道の改修を整理すると、表1の様にとまとめられる³⁾。高山町は繰り返し岐阜県や関係省庁へ道路改修の陳情をしていた。この事業に携わった主体として、岐阜県・長野県・高山の周辺町村・内務省の名前が挙げられる。岐阜県・長野県は中部山岳国立公園（北アルプス）への道路敷設に肯定的であり、高山町が繰り返し請願している安房峠の改修工事

表1 安房峠改修に対する高山町の陳情

年月日	記事内容
1931年8月21日	高山町助役 安房峠の改修を陳情
1932年11月22日	高山町 安房峠改修促進方陳情
1933年1月10日	高山町長 内務省に安房峠改修陳情
1933年3月23日	高山町長 安房、平湯兩峠の改修陳情
1933年4月11日	高山町長 各省へ改修陳情

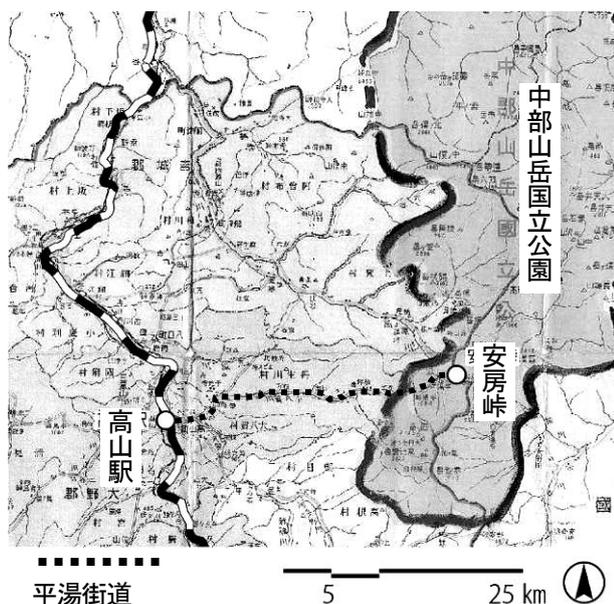


図-1 : 中部山岳国立公園と高山市の位置関係

に対して協力的であった。また、内務省も高山町の請願している道路改修に対して好感をもっていたと高山町長の直井佐兵衛は言っている⁴⁾。平湯街道を改修するに当たって、高山町は周辺の町村と共同で改修費を負担しており、平湯街道の改修は関係する各主体と協力して行なわれたことがわかった。

3. 高山駅と街道を結ぶ都市計画街路

高山町は市制施行以前の 1934 年 11 月に都市計画法の指定を受け、大名田町は 1936 年 4 月に都市計画区域へ編入され計画区域が定められる⁵⁾。

この時期は 1933 年改正都市計画法の適用後であり、町村においても法定都市計画の指定を受けることができるようになっている。法改正時に内務省都市計画課長であった飯沼一省の発言に基づいて、町村都市計画法に対する内務省の考え方として次の項目があるのではないかと推察されている⁶⁾。

- (a) 都市計画に上位に地方計画を立てるべきとされ、その中に町村が分散の拠点として位置づけられている。
- (b) 改正する都市計画上、もはや都市計画区域の広がりそのものは重要ではなく、市街地の計画に集中する視点へ収縮しつつある。
- (c) まずは中小都市へ効率的に、少なくとも街路網と地域制を適用させなければならない、と内務省が考えた。

戦前の都市計画図面は確認できていないが、都市計画区域決定直後にまず道路網と地域制を定めたものと考えられる。1954 年 9 月 4 日に作成された「高山市街圖 高山都市計画街路変更並びに追加一般図」⁷⁾が確認できる最も古い都市計画図面である。図中には高山駅を中心に格子状の街路網が描かれており、高山盆地から周辺部へと通じる街道の歩拡めが計画されている。

「大阪朝日新聞—岐阜地方版—」に記載されている

表 2 道路建設に関する新聞報道

年月日	「大阪朝日新聞」街路建設に関する記事
1931 年 8 月 22 日	四年間の継続事業 道路の改修新設計画
1932 年 7 月 21 日	道路、橋梁、河川など工事のため起債
1932 年 10 月 26 日	道路の整理擴張を図る
1933 年 1 月 21 日	駅前道路の新設、同広場敷地の購入、筏橋架替
1933 年 4 月 26 日	道路七線新設改修に伴ふ起債
1933 年 6 月 4 日	国分寺通りの歩擴め 八年度施行確定
1934 年 1 月 1 日	鍛冶橋架替を県に要請 魚屋町歩擴め、江名子川通改修 県が安川通り擴張予定

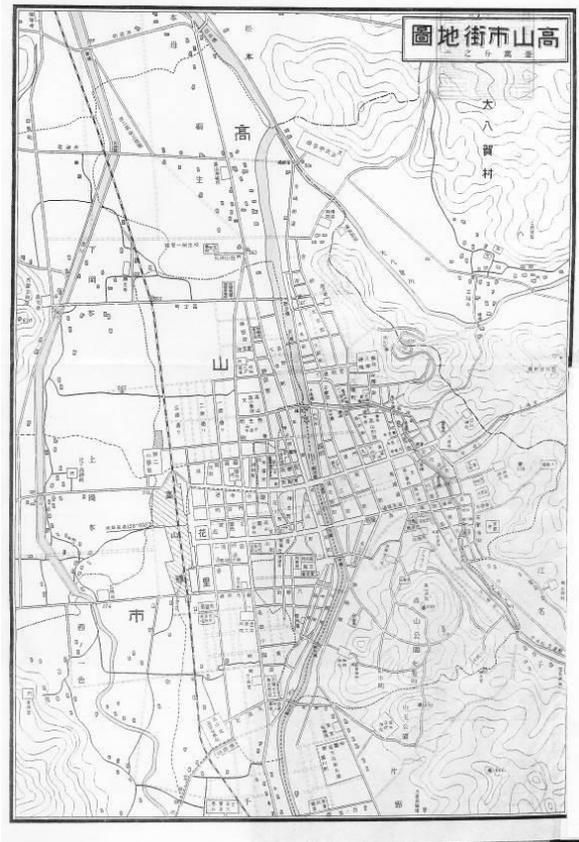


図-2 高山市編「高山市街地圖」1936

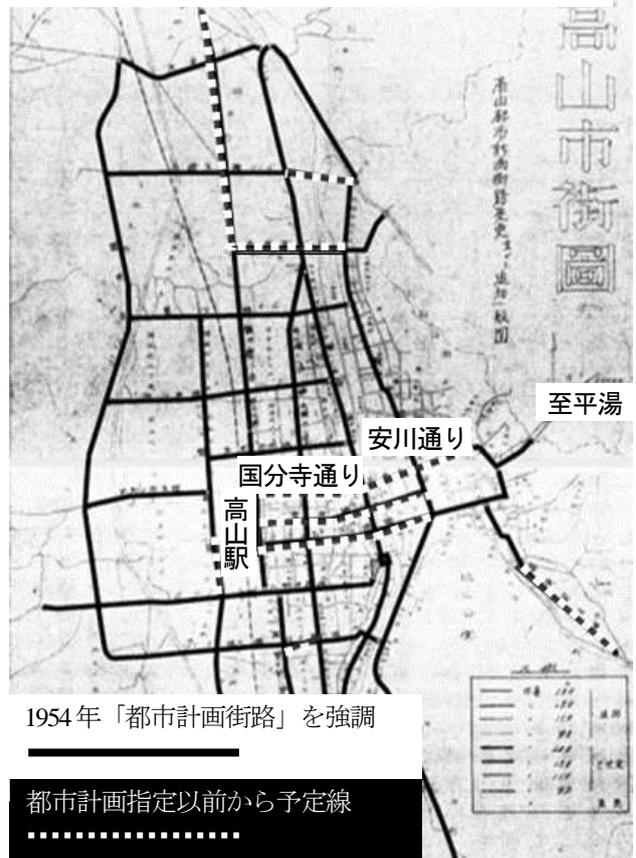


図-3 「高山市街圖 高山都市計画街路変更並びに追加一般図」～筆者加筆

1931-1936 年にかけて高山町から出された街路計画と (表 2), 「高山市街地図」⁸⁾に描かれた予定線から (図-2), 法定都市計画以前の街路計画が読みとれる。後者の所蔵元は, 戦前から都市問題に関する調査研究行なっている後藤・安田記念東京都市研究所併設の市政専門図書館であり, 高山の都市計画を検討する際に参考にされた地図であると考えられる。上記資料と 1954 年の都市計画街路図を比較すると, 都市計画法適用以前の街路計画が都市計画による街路計画に反映されており, 高山駅前から平湯街道へと至る国分寺通り・安川通りを主要な路線とする整備計画が立てられたことが分かる。(図-3)

4. 街道改修に対する高山の目論み

2・3章で取り上げた道路と街路は, いずれも高山駅前から平湯温泉まで至る乗合自動車の営業路線上にあり, 高山と国立公園とを行き来する主導線だった⁹⁾。直井高山市長は高山から信州へ至る自動車道が完成することで, 登山観光の発展に期待し得るとしており¹⁰⁾, 高山による平湯街道の改修の狙い1つとして登山客の輸送が重要な位置づけにあったことが分かる。中部山岳国立公園への登山客に高山を経由させることで, 高山における観光振興を図ろうとしていた¹¹⁾。国立公園への経由地となるためには, 乗合自動車を国立公園の方面へと運行させる必要があり, そのためには平湯街道の改修が必要であった。

5. 結論

市制施行時の高山市が平湯街道の改修を希望したのは, 高山を登山客の経由地にすることで観光振興を図るためであり, その為に安房峠の改修を国・県・周辺町村など各関係主体と共同で行ない, 高山駅から平湯街道へと通じる街路を主要な都市計画街路として位置づけた。

参考文献

- 1) 加瀬和俊, 『戦前日本の失業対策—救済型公共土木事業の史的文責』, 1998.2
- 2) 村串仁三郎, 『国立公園成立史の研究—開発と自然保護の確執を中心に』, 2005.4.1
- 3) 「大阪朝日新聞—岐阜地方版—」 1931-1933
- 4) 「大阪朝日新聞—岐阜地方版—」 1933.3.23
- 5) 高山市「高山市史 第一巻」1981.5.7
- 6) 出村嘉史, 「近代下呂に都市計画はあったか」, 2010.12
- 7) 「高山市街図 高山都市計画街路変更並びに追加一般図」1954.9.4
- 8) 高山市「高山市街地図」1936
- 9) 富田稔彦『飛騨』直井佐兵衛,1934.10.25
- 10) 直井佐兵衛「山都高山」(東京市制調査会『都市問題 第二十四巻』1937.1.6所蔵)

11) 「飛騨毎日新聞」1936.11.1